

聖句

「神の義は、イエス・キリストの真実によって、
信じる者すべてに現されたのです。そこには何
の差別もありません。」

ローマの信徒への手紙 3 章 22 節

「きょう、行ってもいいですか」

次々かかってくる女性の家HELPへの相談電話の間に、退所者からの電話。

「きょう、いってもいいですか？」 仕事が休みなのだという。ちょうど1年前に退所し、自立支援センターに移られた方。その日の入退所者の状況等から、スタッフは、「どうぞ。午後にはいっしょいな」ということもあれば、「きょうではなく別の日で都合のつく日はあるかしら？」と答える日もある。

退所後の悩みやうれしかったこと等、支援員に話す人もいれば、「ここのお食事はほんとうに美味しかった！」とひたすら懐かしむ人もいる。「おやつが忘れられない！」という人も。調理者手作りのフレンチトーストの温かさと甘さ！「サバの塩焼きが美味しかった」と一汁4菜の家庭料理を「また食べたい！」と。ハラル食を懐かしむ外国籍の退所者もいる。調理者たちの心が通じているのだろう。

DV被害や、居場所がない等の困難を経験し、着のみ着のまま、区の相談員とやってきた方たち。緊急一時のシェルターだから原則2週間という短期間の利用。でも、ここは懐かしくて、また訪ねたくなる場所なのだ。支援員に会いたくなり、話を聞いてもらいたくなるのだろう。成長した同伴児を見せに連れてきたくなるのだろう。

1人で訪ねてくる人も、入所時に一緒だった人を誘って、2人3人で来る人もいる。退所時にまだ抱っこされ、離乳食を食べていた同伴児が、しっかりと自分の足で歩いてくる。「おかえりなさい！ おおきくなったね！」玄関で出迎える支援員達は実家のおばあちゃん状態。「ここにいたときはコロナが流行し始めたころだった」と語るが、子どもにとっての半年、1年は大きい。外国籍の同伴児が、「ゾウさん、ゾウさん、お鼻が長いね…」と廊下を歩きながら歌う。母親が、女性の家HELP利用中に日本語のレッスンで習った歌。きっとその後も子守唄代わりに日々歌って聞かせるのだろう。

切れ目のない支援が大切だと、3年前から始まった東京都配偶者暴力被害者等セーフティネット強化支援事業交付金を、アフターケアにも使っている。ソーシャルスキルアップに繋がれたらと、その日実施されるヨガやアート・セラピーに希望者は加わることもできるようにしている。子どもの教育相談や仕事探しのヒント提供、また住まいの相談や人間関係の相談… 支援員たちはみな、利用者達のことをよく理解している。

「困った時は女性の家HELPの相談電話に電話してよい」、「いつでも事前に電話すれば訪ねてきてよい」ことが、退所者たちにとって励まし、慰めとなっている。

困難の中にある女性支援の新しい法律が2024年4月から施行される。女性の家HELPの財政的厳しさは続くが、女性の家HELPの存在意義は大きい。

女性の家HELP施設長 松井弘子



2022 年度 HELP 利用者概況

～ 過去の虐待や暴力被害には言及せず、 日常生活の中でゆっくり回復へと歩む女性たち ～

2022 年度の HELP 利用者は、外国籍女性 11 名、日本国籍女性 49 名、同伴児 12 名、合計 72 名であった。総宿泊数は、1896（前年度比 127.6%）である。利用者数は、2021 年度より 1 名増、総宿泊数は、コロナ禍で落ち込んだ 2021 年度と比べて増加したものの、コロナ前との比較ではほぼ同程度となった。2022 年度は、前年度に引き続き、ミュージックセラピー（月 4 回）、フラワーアレンジメントに加え、内閣府セーフティーネット強化支援交付金プロジェクトによるアート、

ヨガ等多様なセラピープログラムや外国籍女性への施設内日本語教室を年間通して実施した（p 6-7 参照）。



DV 被害女性の安全確保等のため、HELP スタッフが医療機関へ同行した割合は、全入所者では 4.3%（前年度 8.1%）、外国籍入所者では 1.3%（50.0%）である。外国籍の同行率は激減している。しかし、関係機関等の同行も合わせると前年度とほぼ同率であり、同行者の多様化が見られたものの、外国籍入所者が抱える言葉の支援を含めた同行支援の必要性は、変わることがない。

<外国籍女性>

外国籍女性総数 11 名のうち、子ども連れは 6 名おり、同伴児は学童複数名を含む 10 名であった。入所理由は、DV（81.0%）が上位を占め、次いで家族からの暴力（19.0%）である。2022 年度は、居所無し、人身取引による入所はなかった。外国籍全体の平均滞在日数は 41.95 日で、前年度の 17.92 日から 2 週間以上伸長した。2022 年度は、中長期型施設の入所受入れが難航したことも要因である。

- DV 被害者…2022 度は、人数的にも多くの DV 被害女性を受け入れた。滞在が長期化する女性の中には、あふれる程の子どもへの愛情を示し続け、周りの人の癒しの源となる方、施設内での日本語教室で熱心に勉強を続けた方、他国の出身者と互いの言語を学び合う関係を楽しんだ方、宗教上のお祈りを重視した方などがいらした。他方、安定した在留資格を持ちながら、他者との関係が薄くなり孤立を深める女性や、度重なる「サヨナラ」（仲良くなった他利用者の退所）に大泣きする子どももいた。

また、相当期間の滞日年数により日本語が堪能で、自治体の明確な支援方針に沿って、短期間で次の居所にたどり着く方もいらした。

- 家族からの暴力… 2022 年度は、複数の関係機関が関わる家族を受け入れた。複数言語で他の利用者と良好な関係を保ちながら、関係機関とのやりとりを重ね、短期間で予定通り次の居所へ移動した。子どもたちへの暴力の影響は大きく、自分の気持ちを言語化できない彼らの継続的ケアがなされるよう関係機関に申し送りをした。
- 入所者・退所者へのケア… 2022 年度は、少人数のクリスマス会 4 回に加え、さまざまなプログラム時に自由訪問を随時受け入れた。電話相談でのサポートも実施した。

<日本国籍女性>

日本国籍女性は 49 名、うち子ども連れは 2 名であった。入所理由は、ホームレスが 70.6%と 4 分の 3 近くを占めた。次いで、DV（夫・恋人からの暴力）15.7%、家族からの暴力が 11.8%、その他 2.0%と続く。平均滞在日数は 19.90 日、前年度（21.54 日）、前々年度（24.4 日）から 2 年連続で短縮し、3 週間以下となった。

2022 年度に、居場所がなく利用した女性たちの年齢や背景は様々である。親や家族との関係が悪く居場所を失った若い女性たちが、支援団体、福祉事務所を介して多数利用した。その中には、社交的だが大切なことを相談する人がいなく、妊娠中期になっての中絶のために利用する方も複数見られた。彼女たちは、似たような境遇の「仲間」と出会い、同じ場所で気に入ったプログラムに参加しながら時を過ごし、中長期施設に引っ越し後にも折々 HELP を訪問している。他方、相当の資産がありながら事情で自宅を失った高齢女性も複数利用された。心身のコンディションを整え、中長期施設への入所を淡々と待つ姿勢には、誠実に生きていらした人生の足跡を感じた。

DV（夫・恋人からの暴力）で入所した女性たちの中には、地元での支援が困難なため広域利用した女性、常時人との関わりを必要とする不安の強い女性などが含まれる。安全な居所を短期的に利用し、次の安定的な生活場所を定めていくために必要なことをする方も複数いらした。

女性の家 HELP は、外国籍女性と子どもたちを受け入れています

1990 年より東京都外国人女性緊急一時保護事業を受託しています。外国籍女性やその子どもたちを多数受け入れた経験があります。

外国籍女性のシェルター利用に関するご相談は **03-3368-8855**（平日 10 - 17 時）までお願い致します。

<電話相談>

2022 年度の電話相談は、日本を含む 19 カ国（前年度 20 カ国）の方から、968（前年度比 90.8%）の相談項目について相談があった。前年度に比べ、総数は減少しているが、対応時間は増加している。

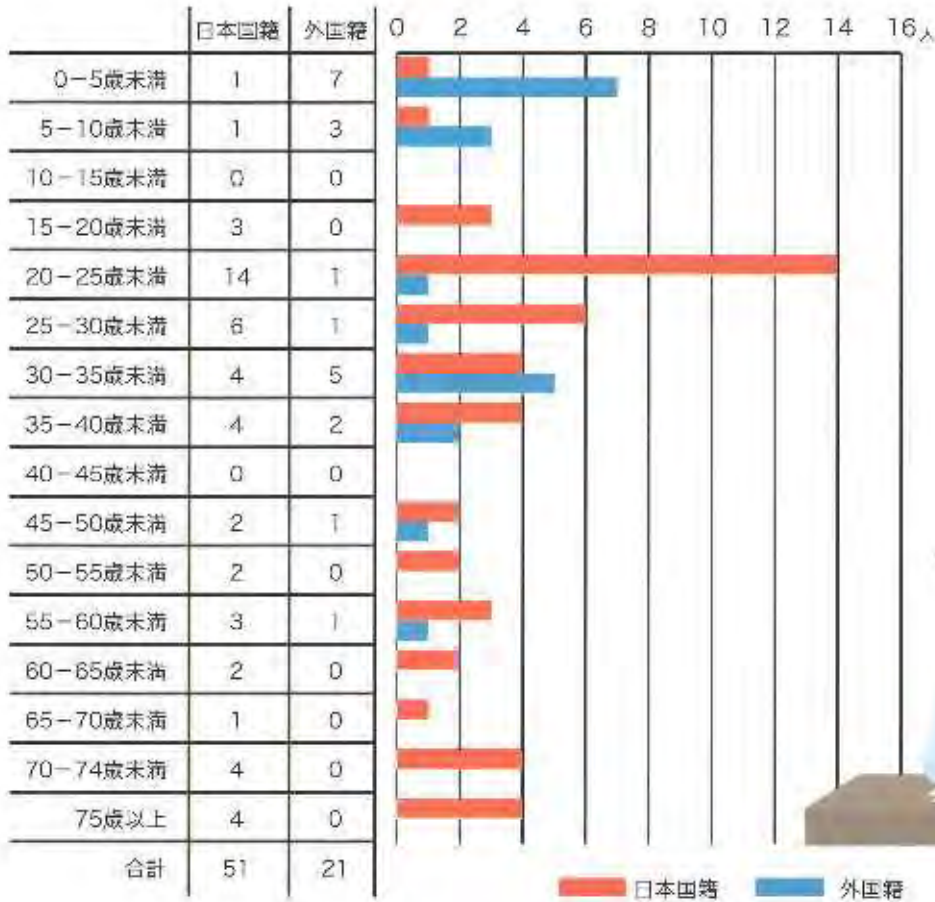
外国籍の方の相談内容は、DV に関する相談、退所者からの現在の生活課題に関する相談などであり、一部は関係機関へつないだ。加えて、近隣自治体（相談窓口）、外国籍支援団体等から、DV 被害や生活困窮中で、生活保護準用にならない在留資格を持つ方への支援など多様な照会が寄せられた。

また、日本人の電話相談では、引き続き DV や性虐待経験の「その後」の生活の生きづらさを訴える電話等が連日続き、その割合は増加している。新しい方のみならず、数年、数十年前の電話相談の方からの相談も続き、コロナ禍で就労していない単身女性たちの居場所が縮小する中、孤立感を深めたり、多くの時間を持て余して当惑したりする様子が伺える。



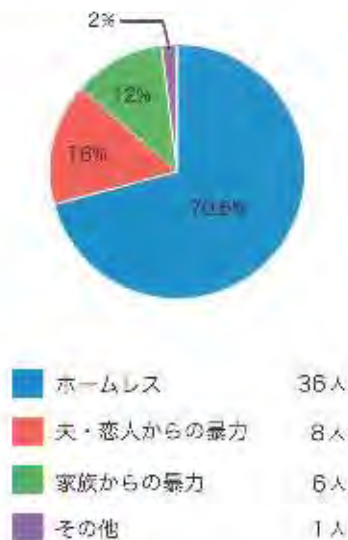
2022 年度統計表

利用者年齢分布

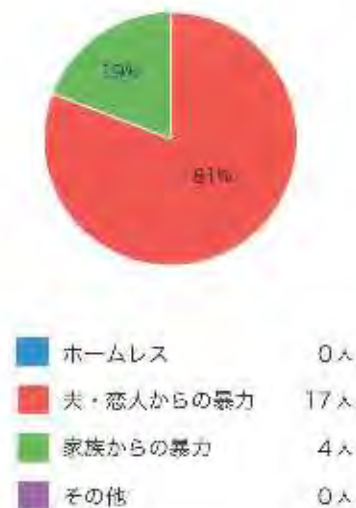


利用内訳 (2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)

【日本国籍】



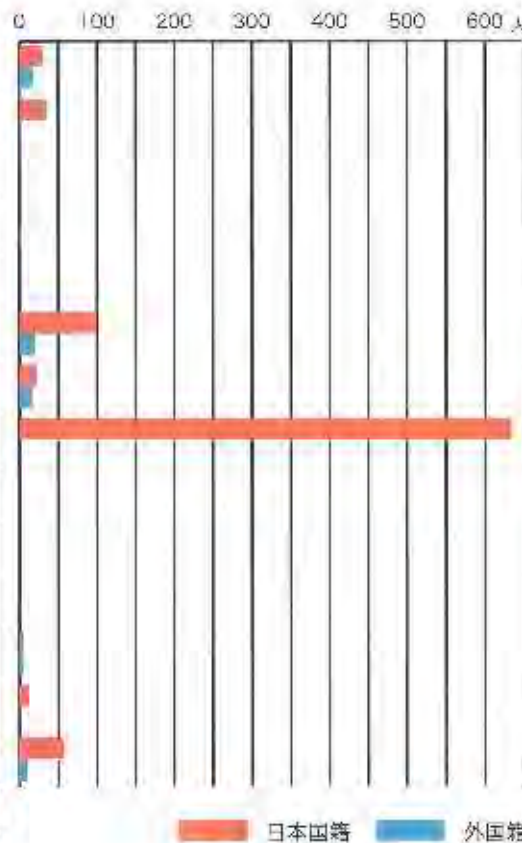
【外国籍】



電話相談項目件数

【内容別】

	日本国籍	外国籍
DV	30	17
家族からの暴力	34	0
人身売買	0	1
在留資格・入管関係	0	3
労働	0	1
一時保護依頼	100	20
情報提供	22	16
心の問題	634	1
結婚	0	0
離婚	0	0
結婚生活上の問題	0	1
子どものこと	4	5
ホームレス	12	1
その他	56	10
合計	892	76



【国籍別】

国籍	件数
日本	892
フィリピン	23
スウェーデン	7
カメルーン	6
ミャンマー	4
ネパール	4
ベトナム	4
中国	3
シンガポール	3
ガーナ	3
パキスタン	3
コンゴ	2
マレーシア	2
ウクライナ	2
タイ	1
インド	1
韓国	1
ペラルーシ	1
不明	6
合計	968

HELP 国籍別滞在者数 (2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)

昨年度から年度をまたいで滞在了た者を含む

HELP 国籍別滞在者数

国籍	女性	同伴児
フィリピン	3	3
ミャンマー	2	3
中国	1	0
ガーナ	1	1
ネパール	1	2
ベトナム	1	1
アフガニスタン	1	0
シンガポール	1	0
小計	11	10
日本	49	2
合計	60	12

同伴児のいる女性の数

日本国籍	49人中 2人
外国籍	11人中 6人

利用者退所先

退所先	日本国籍	外国籍
施設	26	6
アパート	1	4
女性センター	4	0
帰国	0	0
帰宅	2	4
友人・知人宅	4	1
路上	0	0
入院	3	0
住み込み就職	0	0
不明	4	0
未定	2	3
その他	5	3
総計	51	21

外国籍利用者地方別内訳

出身地	人数
東京	9
埼玉	1
北海道	1

外国籍利用者平均滞在日数

2018年	50.03日
2019年	46.46日
2020年	76.75日
2021年	17.92日
2022年	41.95日

国籍別宿泊数

日本	1015
外国籍	881
合計	1896

東京都配偶者暴力被害者等セーフティーネット 強化支援交付金事業「アートセラピー」の取り組み

セーフティーネット強化支援交付事業は開始から今年で4年目を迎えます。様々な事業がある中で、利用者の方々の心の回復のために実施した、アートセラピーは興味を持ってくださる方が多く、この間、たくさんの方々にご参加いただきました。今回は子どもたちや外国籍の利用者の取り組みの様子、作品についてご紹介いたします。



【子どもたちとアートセラピー】

母親と共に女性の家 HELP に入所する子どもたちは、母親へのDVを日常的に目にしたり、実際に自身が父親から暴力を受けるなど過酷な状況から逃れてきています。安全が確保される一方で、慣れ親しんだ地域や学校・保育園などの友人から切り離されてしまうつらさを負い、先々の生活の不安を抱える母親のそばで、その苦しみも目の当たりにしています。安全確保のため、入所中は学校、保育園等に通うことができないため、女性の家 HELP では心身の発達を維持するとともに、傷ついた心の回復のための取り組みを行ってきました。その中でアートセラピーは子どもたちが心を解放する大切な機会になっていると実感しています。



複数のお子さんのいる世帯へのある日のプログラムは、「私たちの理想の町」でした。大きな模造紙に母親が太陽を描き、子どもたちが大好きな電車や公園、遊具など描いていきます。家族が会話を交わしながら、最後には虹を描こうと意見が一致し、空に大きな虹がかけられました。何を描こうかと考えているときのわくわくした気持ち、大好きなものを描いているときの喜び、出来上がった絵から、これからこの家族が共に描いていく未来の希望のようなものを一緒に感じていただいた、ひと時でした。

「私の宝箱」がテーマの日には小学生の男の子が参加していました。小さな木箱の外側をお気に入りのもので飾ります。たくさんの種類の色鮮やかなシール、いろいろな形の貝殻、飾りテープ、布などの材料を目の前に、悩みながら自分の好きなものを選んで貼り付け、作品を仕上げました。男の子は宝箱の中に、スタッフと作製した首飾りを入れました。数日前に大好きなアニメのキャラクターが身に着けているものを模して、苦労して作ったものです。宝箱を大切に部屋に持ち帰った姿が今も印象に残っています。

紙粘土とワイヤーを利用した、アートセラピーの時間には、兄弟で参加した子どもたちが、それぞれ「宇宙」と「写真立て」を作りました。迷いながら材料をひとつひとつ選び、紙粘土の感触を楽しみながら、ずいぶん長い時間、作品に向き合っていたのを今も覚えています。

【外国籍の人所者のアートワーク】

女性の家 HELP に入所される外国籍の方々は出身国は様々ですが、言語、文化、習慣の全く異なる日本で生活するうえで多くの葛藤を抱えているという点では共通しています。伝えたいことが伝わらない、理解してもらうことが難しいというストレスや、社会の中での疎外感など彼女たちの苦勞は絶えません。アートセラピーはそんな彼女たちが、言葉を介す必要がなく、自由に自分自身を表現できる大事な場となっています。

思いもかけない色使い、手先の器用さに驚かされることも、しばしばですが、何より自己表現が豊かで、作品に「私は、私」という強い意志が感じられるのも、その特徴かと思います。様々な困難を生き抜いてきた、彼女たちの力強さが作品に現れているといえるかもしれません。

またそれぞれの個性が現れるのもアートセラピーならではのと言えます。作品を通じて、その方々が大切にしていること、好きなこと、また出身国の生活の様子などもうかがい知ることができ、毎回様々な発見がありました。



女性の家 HELP でのアートセラピーは、学びと経験を積んだセラピストが毎回その目的と効果を考慮してテーマを決め、材料を吟味して選び、準備をしてくださっています。内容のみならず、材料にも癒し、回復につながるエッセンスがたくさん含まれていることを知り、アートセラピーの奥深さを改めて感じました。たくさんの笑顔をもたらしてくれたこのプログラムと担当者の方々に心から感謝です。

2023 年度もこれまで積み重ねてきた、アートセラピーをはじめとしたさまざまな事業のため、交付金の申請をいたしました。より良い支援のために、継続できるよう心から願っております。



「女性の家 HELP」を応援してください！

・・・・・・維持献金で・・・・・・

規制が多かった年月を超え、皆さま、お健やかに過ごしていらっしゃいますか？交流することの難しかった期間にも、HELP を支えて下さる一人一人のお力により助けを求める女性や子どもたちの支援活動が変わらず続けられましたことを心から感謝申し上げます。

昨年度は日本、中国、ミャンマー、ネパール、フィリピン、ベトナム、シンガポール、アフガニスタン、ガーナ出身の女性と子どもたち 72 人が HELP を利用され、また世界 19 カ国の女性に関する電話相談を受けました。親や家族による虐待・暴力のため、また、つらい過去と現在の生きづらさを抱え、女性の家 HELP の支援を必要とする女性や子どもたちが多数いらっしゃいます。今後もスタッフ一同、その支援に一層の努力をして参ります。

厳しい財政の下、HELP が担う使命を全うさせて頂けますよう維持献金によるご支援を、何卒よろしくお願い申し上げます。

2023 年 7 月 公益財団法人 日本キリスト教婦人矯風会理事長 飯田 瑞穂
女性の家 HELP 施設長（常任理事兼務） 松井 弘子

献金送付先

郵便振替口座：00110-5-188775 加入者名：女性の家 HELP

・・・・・・物品寄付で・・・・・・

女性の家 HELP では、利用者の方への日用品等のお渡しにあたり、それが慣れた環境や人間関係から離れ、多くのお気に入り物品を失ってシェルターへたどり着いた女性や子どもたちにとって、新しい生活に向けた「希望」と「意欲」を育むきっかけとなるよう心掛けております。皆様からお寄せいただいたお志を活かして、年齢や国籍・文化等に基づくおひとりおひとりの多様な必要に応えられるよう今後も努力してまいります。皆様のご協力をお願い申し上げます。

コロナ禍につき、現在は新品のみ受付しております。ご協力をお願い致します。

- 《食料品》 調味料（砂糖・塩・醤油・サラダ油）、ジャム、お菓子、嗜好品（コーヒー・紅茶・ココア・緑茶・ジュース・クリープ）＊賞味期限内の物
- 《日用品》 シャンプー、洗濯用粉洗剤、台所用洗剤、ティッシュペーパー、化粧水、乳液、化粧品、ハンドクリーム。
- 《衣料品》 大人用 － パジャマ、スウェット、靴下、ジャケット、パーカー、インナー（半袖、長袖）、下着（L、LL、XL）
＊現在、子ども用品は受付していません。
- 《その他》 折りたたみ傘、靴、ノート、タオルケット、バスタオル・フェイスタオル、クオカード、商品券など。

送付先：〒169-0073 新宿区百人町 2-23-5
日本キリスト教婦人矯風会気付 HELP 事務局
※月曜日から金曜日までの配達指定をお願い致します。

